

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社アースカラー

活動地域：岩手県北部沿岸エリア

活動におけるテーマ

『デジタル地域通貨によるDEEP岩手循環経済圏構築』

本事業への関わり：2年目

活動団体と地域の紹介

活動団体

企業名 株式会社アースカラー



事業内容

「過疎農山漁村の再生を通して、資本主義社会の修正モデルを創る」
人材育成、過疎地での事業立ち上げ伴走支援、第一次産業～第三次産業まで過疎地の再生に資する事業は何でも手掛ける。
人口約2,500人、岩手県最小の自治体、岩手県普代村に本社を構える。

URL

<https://earthcollar.jp/>

地域の現状・課題

- 広い岩手県の中でも一番過疎が進行している東北部が対象
- 各自治体は軒並み人口減少、自然は手つかずで魅力的だがこのままだと消滅していくエリアになるかもしれない。
- 温暖化が原因だと思われる不漁により代替産業が必要。
- 近年、三陸沿岸道が開通したことでアクセスは少し良くなった。
- 気骨あるプレイヤーはたくさんいる。
- 当然だが、移住者誘致と仕事づくりが課題。



地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

「DEEP岩手循環経済圏」(仮)

大資本傘下ではない自立した小規模事業者が衣・食・住・エネルギー・教育福祉などの地域社会のコア部分を担い、地域の自立に本当に必要な地域環境資源、地域社会資源などを把握理解し、地域が管理・再生産できる状態。手段として地域の環境価値・社会価値を反映した独自デジタル地域通貨による経済システムを導入。

地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

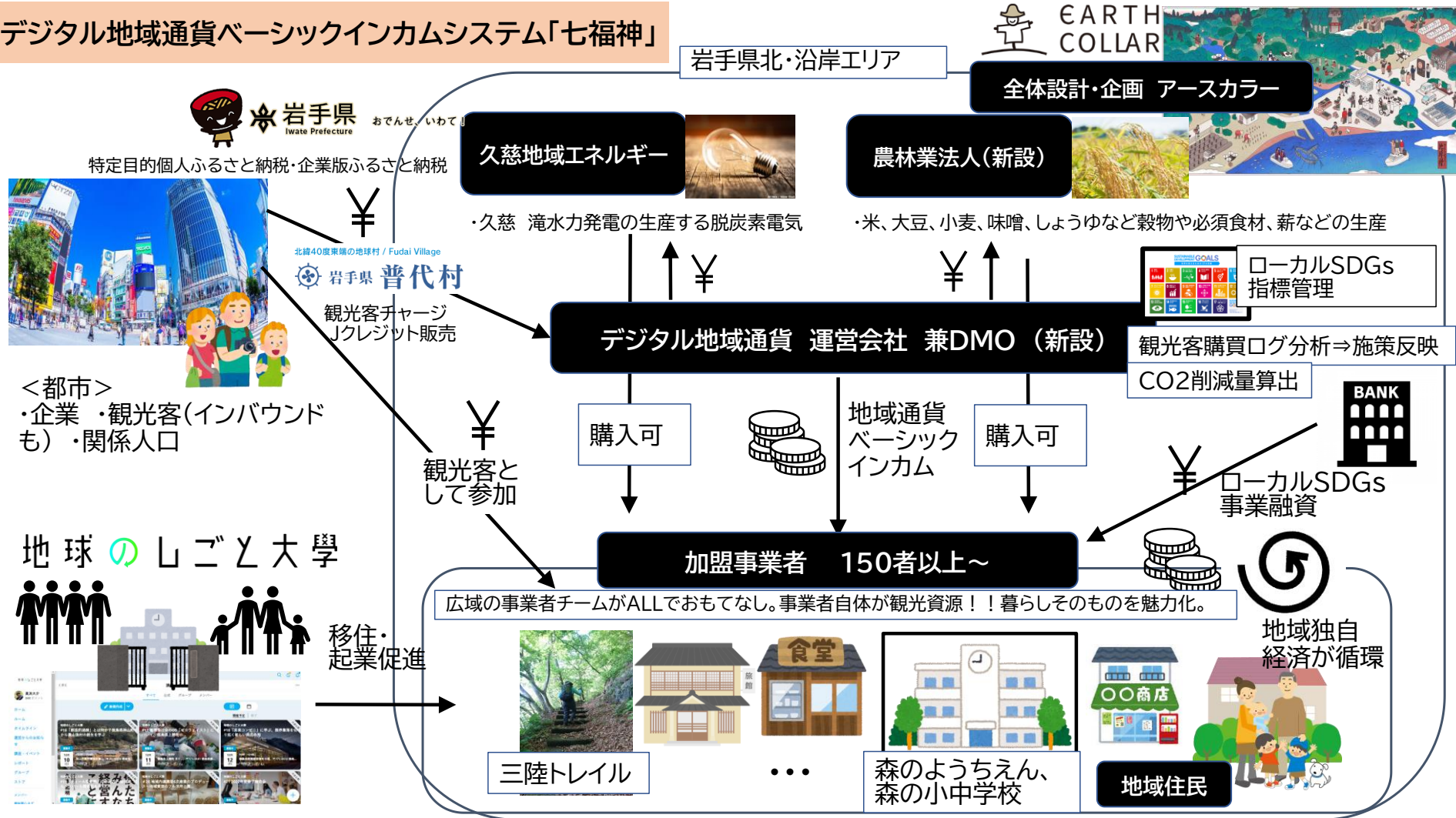
- ・プレイヤーの誘致
- ・プレイヤー同士の連携
- ・プレイヤーの外貨獲得手段を磨く
- ・地域通貨により域内自給経済を守る
- ・地域独自の自立経済の設計図を描く

今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・デジタル地域通貨システムの設計書づくり
- ・農山漁村SDGsしごと図鑑の作成(10個のしごと分野を目標)
- ・引き続き仲間づくり(トータル50事業者が目標)

現時点の地域版マンダラ

デジタル地域通貨ベーシックインカムシステム「七福神」



活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

止まらない人口減少、地域活力の低下。
水産業の凋落。
普代村、田野畑村、岩泉町、野田村、
久慈市。それぞれが独自に地方創生活動を
行ってはいるが、民間が連携して魅力を
発信し、広域で移住者や事業者を誘致
しなくては全体がボトムダウンし、
消滅する。

地域のありたい未来

「DEEP岩手淳県経済圏」(仮)

自立した小規模事業者が衣・食・住・エネルギー・
教育福祉などの地域社会のコア部分を自治運営する。
地域の自立に本当に必要な地域環境資源、地域社会資
源などを把握理解し、地域で管理、再生産できる状態。
手段として地域の環境価値・社会価値を反映した独自
デジタル地域通貨による経済システムを導入。
共生圏構想自体がヒトモノカネを惹きつける。

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ



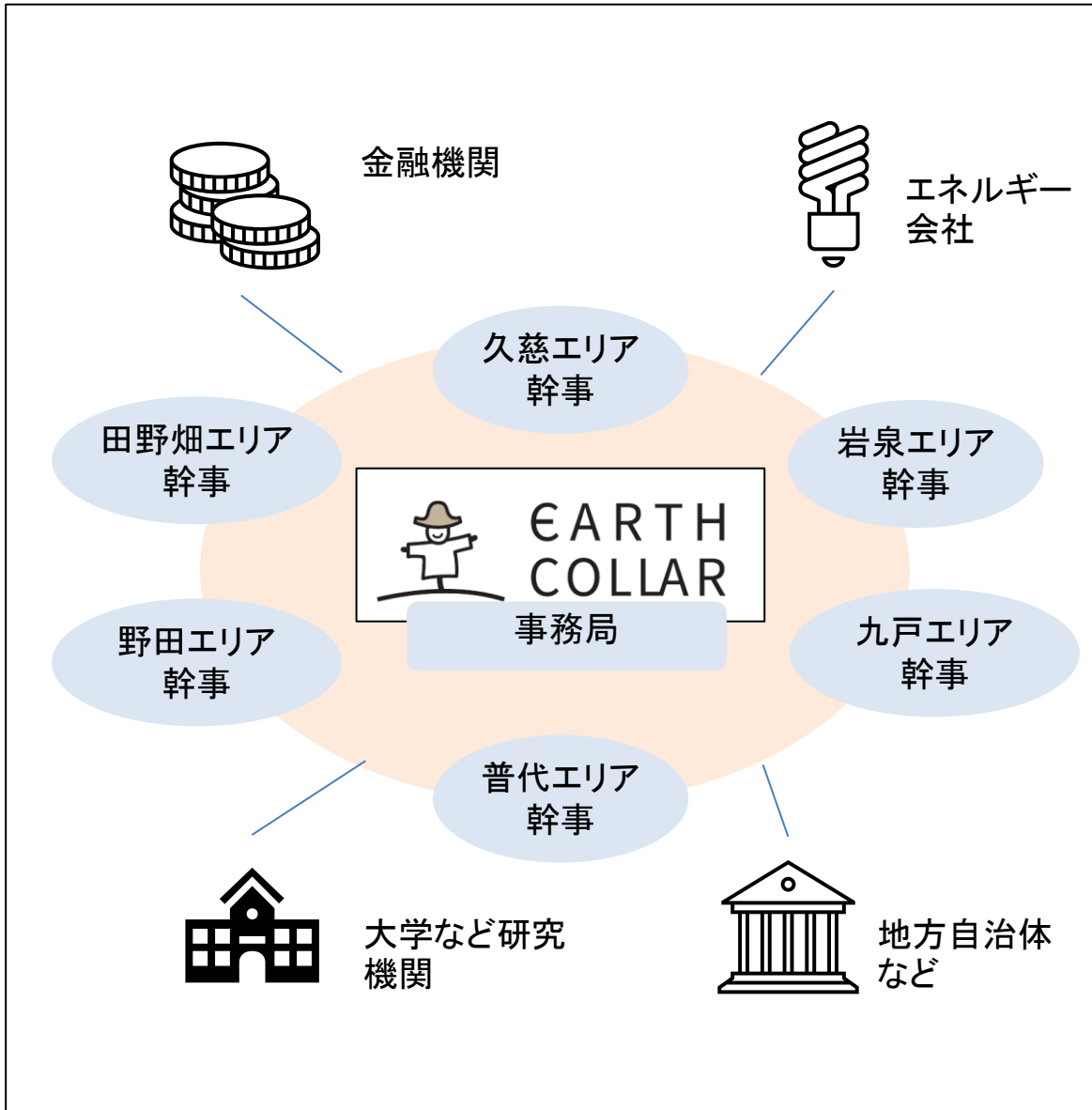
アースカラー＋地域事業者
(2023年度終了時：50事業者、2026年度終了時：150事業者)

想定している資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・山林資源、山林関係事業者
 - ・農業資源、農業関係事業者
 - ・水産資源、水産関係事業者
 - ・その他、衣食住、教育福祉関係事業者
- = 事業者そのものが一番の資源。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ



ステークホルダー

←新たに加わってほしいSH

- ・岩手県
- ・久慈地域エネルギー
- ・岩手銀行など金融機関
- ・宮城大学(宮崎准教授、内定)
- ・各地方自治体

←想定している課題・阻害要因

- ・構想を理解して協力してもらえるかどうか？
(具体的なメリット／デメリット提示をする設計図が必要)
- ・地域通貨で電力購入をできる仕組みが作れるか？

年間スケジュール

